

【ゼミ】

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
コミュニケーションゼミ (S129)	1	必修	1年 前期	演習	専任教員
【キーワード】 コミュニケーション能力、課題発見力、論理的思考力、口頭発表、ゼミ企画					
【授業内容・授業の目的】 少人数制で構成されたゼミ授業を通して、教員と学生、学生同士の交流を深めながら、「話す」「聴く」「書く」「読む」という基本的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。各回の授業は演習形式であり、グループディスカッション（手段や方法に配慮した意見交換なども含む）や個別の口頭発表、グループでの研究発表などを実践していく。また、合同授業を行い、ゼミ生みんなで1つのプロジェクトを企画、実践、報告する「ゼミ企画」を実施する。学期末には学習の成果をゼミ発表などの形でまとめる。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業を通して、集団での活動において必要となるコミュニケーションスキル（多様な価値観を持つ人に伝えられるような話す力、相手の主張を読み解く確かな聴く力、行間を読み解く力、筋道を立てて論理的に説明できる力など）の基本をしっかりと身につけながら、以下の学習成果を獲得することを目標とする。 技能・表現…コミュニケーションスキルの基本をしっかりと身につけ、それを発揮することができる。 思考・判断…テーマについて自分の考えや意見を論理的かつ明確にまとめて発表することができる。 関心・意欲・態度…集団での活動において的確に情報を伝え相手の主張を読み解き積極的に人間関係を築くことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 授業概要の説明		コミュニケーション上、苦手な点を明らかにしておく。(30分)		
2週	コミュニケーション演習(1) 自己紹介など		自己紹介するうえで必要な情報を考えておく。(30分)		
3週	コミュニケーション演習(2) 説明と描写など		課題について、人に説明する時の注意点を考えておく。(60分)		
4週	コミュニケーション演習(3) 表現力など		自分の好きなものをさまざまな方法で表現する練習をしておく。(60分)		
5週	コミュニケーション演習(4) 質問力など		発表を聞いて人に質問する時の注意点を考えておく。(60分)		
6週	コミュニケーション演習(5) ディスカッション		話す上で自分が苦手な点を明らかにしておく。(60分)		
7週	ゼミ企画について(1) 企画の立案など		ゼミでやってみたい企画案を考えておく。(60分)		
8週	ゼミ企画について(2) 企画書作成など		企画書作成に必要な情報を収集しておく。(60分)		
9週	合同授業(1) ゼミ企画発表会		ゼミ企画発表の十分な練習を行っておく。(60分)		
10週	コミュニケーション演習(6) 口頭発表に向けて		自分の口頭発表のテーマ案を考えておく。(60分)		
11週	コミュニケーション演習(7) 口頭発表準備など		口頭発表に必要な情報を収集しておく。(120分)		
12週	コミュニケーション演習(8) 口頭発表など		口頭発表の十分な練習を行っておく。(60分)		
13週	ゼミ企画実施		ゼミ企画に必要な準備を完了させておく。(60分)		
14週	ゼミ企画報告書作成		報告書作成に必要な情報をまとめておく。(60分)		
15週	合同授業(2) ゼミ企画報告会		報告発表の十分な練習を行っておく。(60分)		
【成績評価の方法・基準】 受講態度（グループワークやゼミにおける取り組みなど）40%、定期試験（口頭発表など）30%、提出物（企画書、報告書など）30%で評価する。 技能・表現…受講態度（ゼミ活動での取り組みや発言、グループワークなど）において、コミュニケーションスキルを発揮できているかを評価する。 思考・判断…定期試験（口頭発表など）において、自分の考えや意見を論理的にまとめられているかを評価する。 関心・意欲・態度…提出物（企画書、報告書）の作成にあたって、他のゼミ生と積極的に関わりながら企画を進めていくことができているか、それが提出物にきちんと反映されているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】 特に使用しない。必要に応じて授業時にプリントなどを配布する。					
【参考書等】 田中共子『よくわかる学びの技法』（ミネルヴァ書房） 齋藤孝『コミュニケーション力』（岩波新書） 瀧本哲史『武器としての決断思考』（星海社新書）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 コミュニケーション力習得の成果は、どれだけ真面目に授業に取り組んだかで大きく異なります。ぜひ楽しみながら積極的に授業に参加し、諸問題についてよく考え、担当教員やゼミ生と頻りに意見や情報を交換し、自分の総合的なコミュニケーション力を伸ばして欲しいと思います。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	上田 渡
【キーワード】 サブカルチャー 漫画 アニメ 映画 小説 ゲーム 物語分析					
【授業内容・授業の目的】 いわゆるサブカル文化について総合的に学んでいく。マンガ・アニメ・ゲーム・ネット文化など幅広い。ここでは、研究というもののやり方について主に学んでいく。調査の仕方、考察の仕方、テーマの捕らえ方、分析方法など、実際になされた研究文献を読みながら解説を加えていく。学生はそれを理解し、実践的に自分の対象とするテーマで実践していくこと。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：研究することの意味について理解することができる。 思考・判断：テーマの捉え方、広がりについて考察する力をつけることができる。 関心・意欲・態度：現代文化に興味を持ち、これからの展開を考えられるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	現代文化の捉え方		研究テーマ・研究方法について考えてくる。(60分)		
2週	研究テーマの決め方		研究テーマ・研究方法について考えてくる。(60分)		
3週	分析研究の方法① 言語分析の方法		研究テーマ・研究方法について考えてくる。(60分)		
4週	分析研究の方法② マンガ分析の方法		研究テーマ・研究方法について考えてくる。(60分)		
5週	分析研究の方法③ アニメ分析の方法		具体的な研究対象・テーマについてまとめてくる。(60分)		
6週	分析研究の方法④ 社会学の方法		具体的な研究対象・テーマについてまとめてくる。(60分)		
7週	各自のテーマを決める		具体的な研究計画、進め方についての準備。(60分)		
8週	テーマごとの研究計画発表①		具体的な研究計画、進め方についての準備。(60分)		
9週	テーマごとの研究計画発表②		具体的な研究計画、進め方についての準備。(60分)		
10週	テーマごとの研究計画発表③		参考資料・参考論文の調査(60分)		
11週	文献資料の集め方、参考資料の紹介		参考資料・参考論文の調査(60分)		
12週	参考資料輪読①		参考資料・参考論文の調査(60分)		
13週	参考資料輪読②		参考資料・研究論文などの下読み(60分)		
14週	参考資料輪読③、レポートのまとめ方		参考資料・研究論文などの下読み(60分)		
15週	まとめ		レポート作成の下書き(60分)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）70%、受講態度（授業中の発表・意見など）30% 知識・理解：研究とは何をどうするものなのかを基本的に理解できるか。 思考・判断：自分で研究テーマをきめ、研究計画を立てられるかどうか。 関心・意欲・態度：意欲的な学習態度で取り組めるかどうか。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 特に用いない。資料プリントなどを配布					
【参考書等】 各自の研究テーマに合わせてその都度指示する。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 自分たちで授業を進めていく自主性を重んじているので、準備などはしっかりやること。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	山口 和人(※)
【キーワード】 国立国会図書館 国際子ども図書館 電子展示会					
【授業内容・授業の目的】 国立国会図書館及びその支部図書館である国際子ども図書館がインターネット上で提供するさまざまな内容の「電子展示会」の概要を知り、図書館資料に含まれる歴史や児童文学の豊かな内容の一端を理解することを目的とする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：さまざまな電子展示会の存在やそれらの内容を正確に理解することができるようになる。 関心・意欲・態度：図書館が提供する電子展示会の内容に深い関心を持ち、積極的に適切な情報探索を行うことができるようになる。 思考・判断：図書館の電子展示会の役割について論理的に考察することができるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	国立国会図書館及び国際子ども図書館の電子展示会の概要説明・成績評価の方針等の説明	国立国会図書館及び国際子ども図書館の電子展示会の概要について事前に調べておくこと（60分）			
2週	国際子ども図書館の電子展示会1. 日本の子どもの文学	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
3週	国際子ども図書館の電子展示会2. 絵本ギャラリー	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
4週	国際子ども図書館の電子展示会3. ヴィクトリア朝の子どもの本	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
5週	国際子ども図書館の電子展示会4. 中高生のための幕末・明治の日本の歴史事典	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
6週	国立国会図書館の電子展示会1. 近代日本人の肖像	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
7週	国立国会図書館の電子展示会2. 日本国憲法の誕生	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
8週	国立国会図書館の電子展示会3. 史料にみる日本の近代	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
9週	国立国会図書館の電子展示会4. 江戸時代の日蘭交流	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
10週	国立国会図書館の電子展示会5. 本の万華鏡	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
11週	国立国会図書館の電子展示会6. インクナプラー西洋印刷術の黎明	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
12週	国立国会図書館の電子展示会7. 博覧会—近代技術の展示場	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
13週	国立国会図書館の電子展示会8. 近代日本とフランス	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
14週	国立国会図書館の電子展示会9. NDL イメージバンク	取り上げる電子展示会について事前に調べておくこと（60分）			
15週	全体のまとめ	取り上げた電子展示会について復習しておくこと（60分）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）50%、授業内の発表50%で評価する。 知識・理解：レポート並びに授業内の発表（上記に限らず、どの電子展示会を取り上げてもよい）及び発言において、電子展示会の特質、内容を正確に理解できているかを評価する。 関心・意欲・態度：レポート並びに授業内の発表及び発言において、電子展示会の内容と役割に深い関心を持ち、積極的に問題提起や課題解決の提案を行うことができているかを評価する。 思考・判断：レポートにおいてテーマを論理的に展開できているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】 国立国会図書館及び国際子ども図書館のウェブサイトにて提供されている「電子展示会」					
【参考書等】 他館のウェブサイト上の「電子展示会」					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 図書館の電子展示会は、膨大な図書館のコレクションの中から、さまざまなテーマについての貴重な資料を体系的に紹介し、利用者に関心を持ってもらうという重要な役割を担っています。またインターネットの環境さえあれば、どこにいても楽しむことができます。このゼミでは、電子展示会の重要性を理解するとともに、その面白さを十分に感じ取ることができると思います。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	坂田 和光(※)
【キーワード】 図書館、情報					
【授業内容・授業の目的】 現代初回、図書館と情報に係る書籍を読み、内容を討論するほか、これからの情報の取得の仕方の一つとして、本の読み方についても学習する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：情報社会で現出している問題点を把握する。 関心・意欲・態度：クリティカル・リーディングの手法で新書を読み解き、論理的思考力を養う。 思考・判断：今日の社会状況に鑑み、テキストから、直接的メッセージと共に、間接的なメッセージも受け取れるようにする。					
授業計画			準備学習等		
1週	テキスト①		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
2週	テキスト①		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
3週	テキスト①		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
4週	テキスト①の重要部分話し合う		授業に参加できるように事前に考えておく（60分）		
5週	テキスト②はじめに、第1章		授業に参加できるように事前に考えておく（60分）		
6週	テキスト②第2章		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
7週	テキスト②第3章		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
8週	テキスト②第4章		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
9週	テキスト②第5章、おわりに		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
10週	テキスト②はじめに、第1章		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
11週	テキスト②第2章		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
12週	テキスト②第3章		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
13週	テキスト②第4章		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
14週	テキスト②第5章、おわりに		該当部分を事前に読んでおく（60分）		
15週	テキスト①～③の発信する今日的メッセージを読み解く		授業に参加できるように事前に考えておく（60分）		
【成績評価の方法・基準】 授業内の発表50%、受講態度50%で評価する。 知識・理解：テキストの内容を簡潔に要約し、説明できる。 関心・意欲・態度：文章を多く読み進め、主体的に内容を捉え、自身の考えを授業において積極的に述べる。 思考・判断：テキストを深く読み解き、独自の感想を、正しい言葉、文章で、発信する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】 ①村橋 勝子『情報便利屋の日記 専門図書館への誘い』樹村房, 2016. ISBN 978-4-88367-265-3 ②ズラータ・イヴァンコフ著『ウクライナから来た少女ズラータ、16歳の日記』世界文化ブックス, 2022. ISBN 978-4-418-22504-0 ③金森修『病魔という悪の物語：チフスのメアリー』筑摩書房, 2006. ISBN 978-4-480-68729-7					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 半期で書籍3冊は、きついようですが、多くの情報に囲まれている今日、読書の手法も含め、情報を入力する手法というものがあります。本の読み方も精読だけではなく、重要なのは、自分が能動的に著者のメッセージを読み取ることです。現代社会や図書館に関係のあるテーマに関係のある文章を読んで、多様な境遇の人々を理解するとともに、自分自身の意見を積極的に発信してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	田中 愛
【キーワード】 絵本研究、絵本美術館見学、絵本や児童文学の研究発表					
【授業内容・授業の目的】 絵本や児童文学の中から作品を選び、資料収集からレジюме作成、必要なものの準備をして、各自口頭発表を行う。作者の経歴や作品の成立について調べ、文章や絵についての分析を行えるようになる。質問には、次の時間の冒頭に答える。選んだテーマについて、しっかりした資料収集とその読解、適切なレジюме作成、作品分析、効果的なプレゼンができるようになることが目標である。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解—選んだテーマについて、文献等を調べ、分析に十分な知識を持ち・理解ができるようになる。 思考・判断—選んだテーマについて、重要な点を見抜き、分析することができるようになる。 関心・意欲・態度—テーマについての参考文献を極力集め、効果的なプレゼンができるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	絵本（児童文学）研究についてのガイダンス		絵本（児童文学）から発表テーマを探す（60分）		
2週	教員の発表「ムーミン」作者・背景について		絵本（児童文学）から発表テーマを探す（60分）		
3週	教員の発表「ムーミン」シリーズの特徴とアニメとの比較		どんなテーマで発表したいか決定し、資料を集めていく（60分）		
4週	絵本美術館の展示テーマ（または作家）について		展示テーマについて調べておく（30分）		
5週	絵本美術館見学（土日に振替えて行う。実費必要）		展示テーマについて追加で調べておく（30分）		
6週	口頭発表の仕方のDVDをみる		今までのゼミで発表した資料等を確認（30分）		
7週	発表テーマについて各自が発表		発表テーマを決定し、資料を収集する（120分）		
8週	学生の発表と質疑応答		発表の準備（教員と打ち合わせも行う）（60分）		
9週	学生の発表と質疑応答		発表の準備（教員と打ち合わせも行う）（60分）		
10週	学生の発表と質疑応答		発表の準備（教員と打ち合わせも行う）（60分）		
11週	学生の発表と質疑応答		発表の準備（教員と打ち合わせも行う）（60分）		
12週	学生の発表と質疑応答		発表の準備（教員と打ち合わせも行う）（60分）		
13週	学生の発表と質疑応答		発表の準備（教員と打ち合わせも行う）（60分）		
14週	学生の発表と質疑応答		発表の準備（教員と打ち合わせも行う）（60分）		
15週	まとめ		発表後のレジюме訂正を行い提出（90分）		
【成績評価の方法・基準】 発表40% 提出物（レジюме）40% 受講態度20% 知識・理解—選んだテーマについて、文献等を調べ、基本知識をもとに、作家と作品理解ができているかを発表から評価する。 思考・判断—選んだテーマについて分析し、特徴や価値を見出せているかを発表から評価する。 関心・意欲・態度—テーマについての参考文献を極力集め、読解してまとめ、発表できているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】 適宜資料を配布する					
【参考書等】 赤木かん子『絵本・子どもの本総解説』（自由国民社） 松居直『絵本のよろこび』（NHK出版） サイト：絵本ナビ、ミーテなどに作者インタビューあり					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 世代を超えて読み継がれている絵本や児童文学のすばらしさを見出しましょう。発表については、なるべく多くの資料を参照し、内容の濃いものにするよう努力してください。資料やレジюмеもきちんと準備しましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	青山 千枝子
【キーワード】 英文読解、イギリス文化、アーサー・コナン・ドイル、口頭発表、レポート					
【授業内容・授業の目的】 英語で書かれたテキストを読むすすめながら、基本的な英文の読解力・正しい発音で読む力を伸ばすことやイギリスの文化に対する理解を深めていくことを目的とする。テキストは毎回黙読・音読しながら、基本的な英文の読解力や正しい発音で読む力を伸ばしていく。最終的には各自が興味をもった英語や英語圏の文化についてテーマを1つ選択し、口頭発表を行い、その内容について自分の考察を加えたレポートを提出する。卒業論文につながるレポートの組み立て方についても解説していく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業を通して、総合的な英語力をしっかりと伸ばしながら、英語圏の文化について理解を深め、以下の学習成果を獲得することを目標とする。 知識・理解…英文を読解するために必要な語彙・文法の知識を身につけ、英語圏の文化に関連する用語の意味や概念を正しく理解することができる。 思考・判断…自分の考えや意見を論理的かつ明確にまとめて発表し、専門ゼミでの研究につながるような、初歩的な「ことば」と「文化」の研究ができる。 関心・意欲・態度…自分が興味ある事柄から1つのテーマを取り上げて、主体的にレポート作成ができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 授業概要の説明	アーサー・コナン・ドイルについて調べてくる。(60分)			
2週	Introduction(1) Who is Sherlock Holmes?	教科書 p.78-79 を読み、シャーロック・ホームズについて調べてくる。(60分)			
3週	Introduction (2) Meet the Detectives	教科書 p.80-81 を読み、欧米のフィクションに登場する探偵について調べてくる。(60分)			
4週	Introduction (3) The Science of Detective Work	教科書 p.82-83 を読み、科学捜査に関連する単語について調べてくる。(60分)			
5週	Chapter1 The First Meeting	教科書 p.8-13 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
6週	Chapter 2 “The Game is On!”	教科書 p.14-23 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
7週	Chapter3 The Woman in Pink	教科書 p.24-32 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
8週	Chapter4 Friends and Enemies	教科書 p.33-41 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
9週	Chapter5 The Pink Suitcase	教科書 p.42-50 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
10週	Chapter6 “Taxi for Sherlock Holmes”	教科書 p.51-59 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
11週	Chapter7 The Game of Death	教科書 p.60-67 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
12週	Chapter8 Winners and Losers	教科書 p.68-72 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
13週	Chapter9 “I Caught You a Murder.”	教科書 p.73-77 を読み、内容をまとめてくる。(60分)			
14週	口頭発表について（テーマ・資料作成）	口頭発表のテーマ案を考え、下調べをする。(90分)			
15週	口頭発表 レポートのまとめ方について	口頭発表の準備をして、十分な練習をしておく。(30分)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（口頭発表）40%、定期試験（レポート）30%、提出物（授業内課題や発表まとめ）30%で評価する。 知識・理解…提出物（授業内課題や発表まとめ）により、語彙や文法知識などの総合的な英語力がきちんと身につけているかを評価する。 思考・判断…定期試験（口頭発表）により、テーマに必要な情報を適切に選択し、自分の考えや意見を論理的にまとめられているかを評価する。 関心・意欲・態度…定期試験（レポート）により、ゼミ授業で修得した知識を活かして、自分の興味あるテーマについて自主的な調査を行い、主体的なレポート作成ができているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日 2月10日（土）					
【テキスト】 Paul Shipton 『Sherlock - A Study in Pink』 (Scholastic Readers Level 4 / Mary Glasgow Magazines) (ISBN978-1-906-86192-6)					
【参考書等】 ダニエル・スミス『シャーロック・ホームズ完全ナビ』（国書刊行会） 平賀三郎『ホームズなんでも事典』（青弓社） コナン・ドイル『評注版シャーロック・ホームズ全集(2) 緋色の研究・まだらの紐』（ちくま文庫）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 英文のテキストを毎回読みすすめていきます。予習・復習として内容を理解するためにわからない単語を調べてくるのはもちろんですが、物語の背景的な知識についても同様に調べてくることを期待します。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	鈴木 泉子
【キーワード】 英文法、英文の情報構造、パラグラフライティング、編入対策 (外国語 (英語)、英語学)					
【授業内容・授業の目的】 文法の点から英語という言語の構造を理解し、それらの知識を活用し、英語で自分の考えを適切に表現できるようにすることを狙いとする。また、必要に応じて日本語と比較することで、日英語の文法上の類似点および相違点を明白にし、日本語母語話者に見られる文法上の誤りの原因についての理解を深める。毎回の授業ではプリントを配布し、問題演習を通じて文法項目を理解し、英語の構造への理解を深める。学期末には、自分の考えを英語で適切に表現できるよう指導し、最終的に1パラグラフの自由英作文を完成させる。					
【授業の到達目標 (学習成果)】 この授業を通して以下の学習成果を獲得することを目標としている。 (到達目標) 知識・理解…時制・法助動詞を中心とした文法知識を身につけ、英文を適切に解釈することができる。 思考・判断…英語の情報構造を理解し、主張と根拠を英語で適切に展開することができる。 関心・意欲・態度…獲得した知識を定着させるために、自主的に課題を見つけ取り組むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業概要の説明・英語力チェック	事前に英検準2級 (2022年度第2回) の(1)~(20)を解いておく (問題は英検HPからダウンロード可能、入手できない場合は事前に研究室に取りに来ること) (50分)			
2週	基本文型(1)SV, SVC, SVO	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
3週	基本文型(2)SVOO, SVOC	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
4週	時制(1)現在時制・過去時制・未来表現	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
5週	時制(2)進行形	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
6週	時制(3)完了形	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
7週	時制(4)演習による理解の定着	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
8週	助動詞(1)根源的用法	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
9週	助動詞(2)認識的用法	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
10週	助動詞(3)演習による理解の定着	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)、日英語の文法事項を1つ取り上げ、類似点及び相違点についてまとめる (冬休みの課題として) (240分)			
11週	パラグラフライティング(1)形式	与えられた課題を解いておく (50分)			
12週	パラグラフライティング(2)構成	与えられた課題を解いておく (50分)			
13週	パラグラフ作成(1)アウトライン作成	与えられた課題を解いておく (60分)			
14週	パラグラフ作成(2)英文校正	与えられた課題を解いておく (60分)			
15週	パラグラフ作成(3)仕上げ	与えられた課題を解いておく (60分)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験 (パラグラフライティング) 60%、提出物 (予習課題・授業内課題) 30%、受講態度 10% 知識・理解…パラグラフライティング及び授業内課題により、学習した文法事項が身についているかを評価する。 思考・判断…パラグラフライティングにより、適切な方法で主張を展開できているかを評価する。 関心・意欲・態度…予習課題及び受講態度により、積極的に課題に取り組めたかを評価する。					
【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日2月10日 (土)					
【テキスト】 授業時にプリントを配布する					
【参考書等】 英和辞典 (南出康世編集主幹『ジーニアス英和辞典 第5版』大修館書店、もしくは同程度のもの) 文法書 (綿貫陽、マーク・ピーターセン著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社、もしくは同程度の (= 高校までの文法事項を網羅してある) もの)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 編入学試験のための英語力向上を目指す学生の受講を歓迎する。受講までに英検準2級相当以上の英語力(文法・語彙)を修得しておくのが望ましい。課題については締め切りを厳守すること。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	北原 泰邦
【キーワード】 文章創作、小説の読み方と書き方、ストーリーとプロット					
【授業内容・授業の目的】 近代から現代の小説の特徴を幅広く読みながら、その方法を小説の創作に生かして、創造的な文章の書き方や表現技術を学ぶことを目標とする。小説の文体の特徴や表現効果を考えながら、小説に必要な構成要素を学んで、短編小説程度の作品を創作する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 近代小説の技法・文体の特徴を理解し、実践的創作を通して小説の構想の立て方や構成方法を学び、小説の基本的構造をもとに創作小説を書く力を養成することを目指す。 (到達目標) 知識・理解…近代小説の技法・文体の特徴を理解することができる。 思考・判断…小説の構想の立て方や構成方法を独自で考え組み立てることができる。 関心・意欲・態度…課題文の作成や創作小説の完成に向けて積極的に取り組むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス		参考文献を確認する(20分)		
2週	小説の読み方と書き方を学ぶ		個人発表の準備①(60分)		
3週	ストーリーとプロットの方法を学ぶ		個人発表の準備②(60分)		
4週	人物・視点の設定の方法を学ぶ		個人発表の準備③(60分)		
5週	課題文「もう一人の自分」①		課題文の構想を練る(30分)		
6週	課題文「もう一人の自分」②		課題文に取り組む(90分)		
7週	描写・比喩表現を学ぶ		小説の材料をさがす(60分)		
8週	課題文「日常の風景を描写する」①		風景描写の方法を考える(30分)		
9週	課題文「日常の風景を描写する」②		描写文を書く(90分)		
10週	映像を物語化する		小説の企画書を考える(30分)		
11週	小説の企画書を作る		企画書の構想を練る(90分)		
12週	パロディ小説の方法を学ぶ		レポート小説作成の準備・執筆①(30分)		
13週	パロディ小説を書く①		レポート小説作成の準備・執筆②(30分)		
14週	パロディ小説を書く②		レポート小説作成の準備・執筆③(60分)		
15週	小説の合評会		レポート小説の完成(160分)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験「レポート小説」(70%)、提出物(30%) 知識・理解…課題文において、課題の意図を理解した上で創作文章を作成できたかを評価する。 思考・判断…レポートにおいて、小説の企画書の内容をふまえて創作に活かされたかを評価する。 関心・意欲・態度…レポートにおいて、創作小説の完成に向けて積極的に取り組めたかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 授業時にプリントで随時配布する。					
【参考書等】 『小説作法ハンドブック』(榎本秋著・アスペクト社)、島田雅彦『小説作法ABC』(新潮選書)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 小説を書くためには、文章表現の基礎が前提となります。 まずは「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業で、しっかりと文章の書き方の基本を学んでください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	泉 石心
【キーワード】 文房四宝、書体理解、書作分野理解、書表現					
【授業内容・授業の目的】 書道に關係する用具や書作分野等、幅広く学び、書道文化の理解を深め、数多くある分野の中から自分に内在する興味を引き出し、その興味ある分野について研究し、作品制作する形態で行う。出来る限り本物を見せて興味関心が高まるよう進める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業の目標は、書道芸術・書道文化を理解し、その知識を活用しながら課題を探究する能力を身につけ、書表現することである。 知識・理解…文房四宝を知り、書作分野や各書体について理解することができる。 技能・表現…用具の特徴を理解した上で書表現ができる。 関心・意欲・態度…書道文化に関心を持ち、意欲的、主体的に研究し制作することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		中学高校で学習した書道分野を思い出しておく。(0,5時間)		
2週	文房四宝研究	筆・硯・墨・紙	文房四宝について知っていることをまとめておく。(1時間)		
3週	書体の研究	篆・隸・楷・行・草	書体の種類を調べておく。(1時間)		
4週	篆刻・刻字の研究	用具と使い方	篆刻と刻字の違いを調べておく。(1時間)		
5週	刻字作品制作	転写と彫り	草稿づくり。(1時間)		
6週	刻字作品制作	彫り	刻字作品制作。(1時間)		
7週	刻字作品制作	彩色 まとめ	刻字作品制作。(1時間)		
8週	漢字仮名交じり書の研究	名品鑑賞	新聞や雑誌の中の筆文字を調べておく。(1時間)		
9週	漢字仮名交じり書	章法と文字の表情	草稿づくり。(1時間)		
10週	漢字仮名交じり書	まとめ	半紙練習。(1,5時間)		
11週	仮名の研究	名品鑑賞	仮名の成立について調べておく。(1時間)		
12週	高野切臨書	まとめ	高野切半紙練習。(1時間)		
13週	書作分野研究	資料収集	書作分野調査。(1時間)		
14週	レポートづくり	作品制作	レポートづくり。草稿づくり。(1時間)		
15週	作品制作	作品鑑賞 まとめ	作品制作。(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 受講態度(50%)、提出物[作品、レポート等](50%)により評価する。 知識・理解…書道用具の特性、各書体の特徴、書作分野を理解しているかを評価する。 技能・表現…用具を理解した上で工夫した書表現ができているかを評価する。 関心・意欲・態度…受講態度や作品により、意欲的に取り組んでいるかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】 書道雑誌『墨』芸術新聞社					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 今まで知らなかった文房四宝、書体、書作分野について、理解を深めるために積極的に情報を収集してほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (S230)	1	必修	1年 後期	演習	三輪 雅子(※)
【キーワード】 交流分析 自我状態 エゴグラム やりとりの分析 ブックレポート					
【授業内容・授業の目的】 交流分析の基礎知識を身につける。教科書講読、ワークとディスカッションを通して自分自身の心理的特性と対人関係の特徴を分析する。各自が興味あるテーマに沿って文献購読と発表を行い、知識を深める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業を通して交流分析の技法による課題解決の能力を身につけることを目指している。 知識・理解：交流分析について正しく述べるができる。 技術・表現：交流分析に関する中心となる考えを自らの理由をあげて主張することができる。 思考・判断：獲得した知識等を身近な課題に適用できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 交流分析とは		教科書 P1～P3 を読んでおく。(1時間)		
2週	自我状態とエゴグラム		教科書 P4～P18 を読んでおく。(1時間)		
3週	自我状態の構造分析		教科書 P19～P24 を読んでおく。(1時間)		
4週	やりとりの分析		教科書 P25～P37 を読んでおく。(1時間)		
5週	ゲームとは		教科書 P38～P44 を読んでおく。(1時間)		
6週	ゲーム分析		教科書 P45～P59 を読んでおく。(1時間)		
7週	脚本とは		教科書 P60～P63 を読んでおく。(1時間)		
8週	脚本分析		教科書 P64～P66 を読んでおく。(1時間)		
9週	ストローク		教科書 P67～P74 を読んでおく。(1時間)		
10週	時間の構造化		教科書 P75～P80 を読んでおく。(1時間)		
11週	ラケット・人生の基本的構え		教科書 P81～P92 を読んでおく。(1時間)		
12週	禁止令・ドライバー		教科書 P94～P100 を読んでおく。(1時間)		
13週	文献・資料の収集・整理		文献検索のための資料を読んでおく。(1時間)		
14週	ブックレポート発表		ブックレポート発表の準備をする。(1時間)		
15週	交流分析のまとめ		交流分析についてレポートにまとめる。(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 提出物 40%、定期試験（レポート）40%、受講態度 20% 知識・理解：提出物と定期試験（レポート）によって主要キーワードが正確に説明できているかを評価する。 思考・判断：提出物と定期試験（レポート）によってテーマを論理的に展開できているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】 中村 延江 片岡 ちなつ 田副 真美 『図解&ワークでわかる・身につく初学者のための交流分析の基礎』 金子書房 ISBN 978-4760823710					
【参考書等】 イアン・スチュアート 『エリック・バーンの交流分析』 実業之日本社 ISBN 978-4408455709					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 教科書のワークとディスカッションで理解を深めていく。ワークは必ず実施し授業中に発表してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	上田 渡
【キーワード】サブカル アニメ ゲーム 物語分析・批評					
【授業内容・授業の目的】 広く現代文化について研究・調査をしていく授業である。マンガ、アニメなどのサブカル文化から映像表現、メディア文化まで現代文化を自分の切り口で分析していく授業である。前期は、各自のテーマに合わせて、資料映像を見たり、対象資料を読んだりしていく。					
【授業の到達目標 (学習成果)】					
知識・理解：自分の取り上げたテーマについて深く掘り下げ、論文としてまとめることができる。					
思考・判断：まとめた論文に基づいてゼミ発表会で発表することができる。					
関心・意欲・態度：他者の研究についても耳をかたむけ自分の論文をふりかえることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	各自の研究テーマの見つけ方について			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
2週	年間研究計画の立て方について			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
3週	ジャンルと対象の捉え方について			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
4週	研究方法の見つけ方について			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
5週	調査・記録について			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
6週	資料集めの方法と検討			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
7週	資料の見方、読み方①			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
8週	資料の見方、読み方②			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
9週	テーマ及び年間計画の発表(資料目録作成)			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
10週	資料輪読・映像資料分析など①			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
11週	資料輪読・映像資料分析など②			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
12週	資料輪読・映像資料分析など③			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
13週	資料輪読・映像資料分析など④			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
14週	資料輪読・映像資料分析など⑤			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
15週	夏休み中の計画・調査旅行など			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
16週	各自テーマの最終決定(サブタイトルをつける)			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
17週	研究論文の書き方について①			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
18週	研究論文の書き方について②			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
19週	各自論文作成のための個別指導①			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
20週	各自論文作成のための個別指導②			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
21週	各自論文作成のための個別指導③			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
22週	各自論文作成のための個別指導④			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
23週	中間発表①			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
24週	中間発表②			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
25週	中間発表③			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
26週	中間発表④			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
27週	論文・仮提出			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
28週	ゼミ発表準備①			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
29週	ゼミ発表準備②			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
30週	論文・本提出			研究関連の文献調査・考察。(60分)	
【成績評価の方法・基準】ゼミ発表 40% 論文 40% 受講態度 20%					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】特に用いない。各自の研究テーマに沿って指示する。					
【参考書等】各自の研究テーマに沿って指示する。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】楽しいこと、興味あることを学問として研究していくことの喜びと苦しみを味わってください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	山口 和人(※)
【キーワード】 国立国会図書館 電子図書館 データベース 情報検索					
【授業内容・授業の目的】 ネットワーク社会が出現した今日、企業や図書館においては、的確な情報検索を行う高度な能力（検索スキル）がこれまで以上に強く求められています。この授業では、主として国立国会図書館が提供する各種データベースを用いて、学生の皆さんにそのような能力を体得していただくことを目的とします。					
【授業の到達目標（学習成果）】 思考・判断：現代日本の社会において、どのような情報が求められているのか、自ら考え、情報への効果的な到達の方法を論理的に考察することができるようになる。 知識・理解：図書館やインターネット上に存在する各種情報について幅広い知識と深い理解を身につけることができるようになる。 関心・意欲・態度：的確な情報検索の意義を十分に理解し、自ら納得のいくまで情報検索に取り組むことができるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ゼミの概要説明				
2週	国立国会図書館サーチの使い方（書誌情報からの検索・Cinii Books等との比較）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
3週	国立国会図書館サーチの使い方（主題からの検索）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
4週	国立国会図書館オンラインの使い方			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
5週	Web Ndl Authoritiesの使い方（件名の探索）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
6週	Web NDL Authoritiesの使い方（件名以外のデータの探索）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
7週	リサーチ・ナビの使い方（全般）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
8週	リサーチ・ナビの使い方（パスファインダー）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
9週	リサーチ・ナビの使い方（主題からの調査）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
10週	リサーチ・ナビの使い方（国立国会図書館の調査・研究成果）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
11週	リサーチ・ナビの使い方（自由研究報告）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
12週	レファレンス協同データベースの使い方（全般）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
13週	レファレンス協同データベースの使い方（さまざまなレファレンス事例の検証）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
14週	レファレンス協同データベースの使い方（自由研究報告）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
15週	前期に学んだデータベースのまとめ・後期に向けての計画			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
16週	国立国会図書館インターネット情報収集事業（WARP）の使い方（全般）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
17週	WARPの使い方（国、地方の機関）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
18週	WARPの使い方（大学その他）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
19週	WARPの使い方（自由研究報告）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
20週	カレントアウェアネス・ポータルの使い方（全般）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
21週	カレントアウェアネス・ポータルの使い方（自由研究報告）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
22週	国立国会図書館デジタルコレクションの使い方（全般）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
23週	国立国会図書館デジタルコレクションの使い方（プランゲ文庫など）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
24週	国立国会図書館デジタルコレクションの使い方（自由研究報告）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
25週	国立国会図書館の電子展示会（全般）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
26週	国立国会図書館の電子展示会（自由研究報告）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
27週	国会会議録データベースの使い方（全般）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
28週	国会会議録データベースの使い方（自由研究報告）			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
29週	国際子ども図書館のデータベースの概要			取り上げるデータベースについて調べておく（60分）	
30週	まとめ・自由研究報告				
【成績評価の方法・基準】 卒業研究（50%）、日常のゼミ活動の実績（30%）、ゼミ発表への貢献（20%）で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金） 後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】 国立国会図書館ウェブサイトに掲載されている各データベース					
【参考書等】 情報科学技術協会発行『検索スキルをみがく（第2版）』（検索技術検定3級公式テキスト） ISBN 978-4-88367-340-7					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 国立国会図書館は日本の知識・情報の宝庫です。情報の電子化が進む中、膨大な情報がインターネットからアクセス可能なデータベースを通じて入手可能です。このゼミでは、国立国会図書館の情報資源を居ながらにして入手する能力を会得することを目的とします。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	坂田 和光(※)
【キーワード】 図書館、ホームページ(ウェブサイト)、レファレンス(情報サービス)、デジタルアーカイブ、学習支援					
【授業内容・授業の目的】 日本の図書館について、ホームページを通じて研究する。ホームページを見るだけで、図書館の差が明白となる。日本の図書館のホームページを探索し、特筆すべきサービス事例・活用できるコンテンツを見つけるとともに、意欲的な図書館サービスの提供について検討する。最終的に「理想の図書館」の姿を、ホームページのサイト上のコンテンツの集積のかたちで設計する。					
【授業の到達目標 (学習成果)】 先進的な公共図書館を様々な角度から深く調べる。 (到達目標) 知識・理解：先進的な図書館がどのようなサービスを提供し、どのような役割を担っているのか、どのような情報発信をしているのかを調べて発表する。 技能・表現：自分がこのような図書館サービスを行うべきであるということを議論できる。 思考・判断：上記について、分かりやすくまとめることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	大学図書館のホームページをチェックする				課題を準備する(60分)
2週	大学図書館のホームページをチェックする				課題を準備する(60分)
3週	公共図書館のホームページをチェックする				課題を準備する(60分)
4週	公共図書館のホームページをチェックする				課題を準備する(60分)
5週	参考となる図書館のホームページについて話し合う				課題を準備する(60分)
6週	利用できるコンテンツの類型を検討する				課題を準備する(60分)
7週	利用できるコンテンツの類型を検討する				課題を準備する(60分)
8週	デジタルアーカイブを企画する				課題を準備する(60分)
9週	デジタルアーカイブを企画する				課題を準備する(60分)
10週	デジタルアーカイブを企画する				課題を準備する(60分)
11週	パスファインダーのテーマを選ぶ				課題を準備する(60分)
12週	パスファインダーのテーマを選ぶ				課題を準備する(60分)
13週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
14週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
15週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
16週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
17週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
18週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
19週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
20週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
21週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
22週	レファレンス事例集を作る				課題を準備する(60分)
23週	学習支援のためのコンテンツを選ぶ				課題を準備する(60分)
24週	学習支援のためのコンテンツを選ぶ				課題を準備する(60分)
25週	学習支援のためのコンテンツを選ぶ				課題を準備する(60分)
26週	図書館発のイベントを企画する				課題を準備する(60分)
27週	図書館発のイベントを企画する				課題を準備する(60分)
28週	活用できるコンテンツをまとめる				課題を準備する(60分)
29週	理想の図書館のサイト設計をする				課題を準備する(60分)
30週	理想の図書館のサイト設計をする				課題を準備する(60分)
30週	研究テーマの最終報告・討議				最終報告の準備(60分)
【成績評価の方法・基準】 受講態度 (50%)、最終成果物 (50%) 知識・理解：図書館の中の優れたサービスを、ホームページを通じて見出す。多くの情報の中から、効率よく見つけるコツを身につける。 技能・表現：日本の公立図書館・大学図書館について、様々な角度から捉えて調べていることを評価する。 思考・判断：分かりやすいまとめ方ができるかどうかについて評価する。					
【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日 8月4日(金) 後期返還日 2月10日(土)					
【参考書等】 日本図書館協会図書館リンク集 (https://www.jla.or.jp/link/tabid/95/Default.aspx) 国立国会図書館リサーチナビ公共図書館パスファインダーリンク集 (https://navi.ndl.go.jp/research_guide/entry/pubpath.php)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 大学図書館、公立図書館の中には、特筆すべきサービスを提供しているところがあります。そのような図書館はホームページも充実しています。そのホームページから有用なコンテンツを見つけ出し、活用しましょう。また、これらの図書館を参考にして、理想の図書館というものを自身の中で構築してみましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	田中 愛
【キーワード】絵本（児童文学）研究、絵本の読み聞かせ・ブックトーク・ビブリオバトルなど読書推進技術の習得					
【授業内容・授業の目的】共同で絵本（児童文学）研究を行い、資料収集・読解・分析をもとに、協力して作品の価値を見出し、プレゼンを行えるようになる。読み聞かせ会のプログラム作成と実演をチームで行う。また、ビブリオバトルとブックトークを適切に行えるようになり、「第4回若者によるビブリオバトル大会」の企画運営にも参加、読書推進活動に関われるようになる。 可能であれば、絵本美術館見学や国会図書館・国際子ども図書館見学も実施する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解—絵本（児童文学）研究のテーマに沿って、様々な資料を読みこなし、本質を理解できるようになる。 思考・判断—研究対象を分析し、お互いの意見をまとめながら、特徴や価値、歴史的位置づけなどを論理的に示すことができるようになる。 関心・意欲・態度—読み聞かせ会やビブリオバトル大会などの実習において、協力して企画運営し、聞き手に配慮して適切なプレゼンができるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス・スケジュール確認		研究のテーマとする絵本（児童文学）を探す（60分）		
2週	絵本（児童文学）研究について 先輩の研究紹介		研究のテーマについて資料を探す（60分）		
3週	絵本（児童文学）研究の共同テーマおよび担当決定		自分の担当する研究を行う（120分）		
4週	絵本美術館見学（土日に振替）		美術展のテーマ絵本・作者について調べる（60分）		
5週	学生発表会に向けてのPP・原稿づくり		学生発表会の内容を検討する（60分）		
6週	学生発表会に向けての発表練習		学生発表会での担当の原稿やPPを作成する（60分）		
7週	絵本（児童文学）研究 作家についての発表インタビューができれば出かけて行って実施		研究の担当部分について調べレジュメを作成、質問を調べたり指摘箇所について修正（60分）		
8週	絵本（児童文学）研究 著作についての発表		研究の担当部分について調べレジュメを作成、質問を調べたり指摘箇所について修正（60分）		
9週	絵本（児童文学）研究 注目する1作についての発表		研究の担当部分について調べレジュメを作成、質問を調べたり指摘箇所について修正（60分）		
10週	絵本（児童文学）研究 絵本史における位置づけについての発表		研究の担当部分について調べレジュメを作成、質問を調べたり指摘箇所について修正（60分）		
11週	絵本（児童文学）研究 絵の手法や画材についての発表		研究の担当部分について調べレジュメを作成、質問を調べたり指摘箇所について修正（60分）		
12週	ブックトークについて講義		ブックトークの映像を見て、ポイントを調べておく（60分）		
13週	学生によるブックトーク実演		ブックトークのシナリオ作りと練習・指摘箇所の訂正（60分）		
14週	学生によるブックトーク実演		ブックトークのシナリオ作りと練習・指摘箇所の訂正（60分）		
15週	学生によるブックトーク実演		ブックトークのシナリオ作りと練習・指摘箇所の訂正（60分）		
16週	学園祭発表準備		学園祭発表の内容を検討する（60分）		
17週	学園祭発表準備		学園祭発表の原稿等の準備を行う（60分）		
18週	ビブリオバトルについて講義		ビブリオバトルの映像を見て、ポイントを調べておく（30分）		
19週	ビブリオバトル 学生発表		ビブリオバトルの練習（60分）		
20週	ビブリオバトル 学生発表		ビブリオバトルの練習（60分）		
21週	ビブリオバトル 学生発表		ビブリオバトルの練習（60分）		
22週	ビブリオバトル大会 打ち合わせおよび担当決め		ビブリオバトル大会の昨年の資料をチェック（30分）		
23週	ビブリオバトル大会リハーサル		ビブリオバトル大会の練習（60分）		
24週	ビブリオバトル大会 運営・参加（土日に振替）		ビブリオバトル大会の練習（60分）		
25週	図書館での読み聞かせ会の内容・担当決め		読み聞かせ会のテーマ決めと候補の絵本を選出（60分）		
26週	読み聞かせ会の練習		担当部分の練習（60分）		
27週	読み聞かせ会の練習・リハーサル		担当部分の練習（60分）		
28週	読み聞かせ会実施（土日に振替）		担当部分の練習（60分）		
29週	ゼミ発表会に向けてPPおよび原稿作成		ゼミ発表会の内容を検討し、必要な資料を集める（60分）		
30週	ゼミ発表会のリハーサルおよび修正		ゼミ発表会の練習（60分）		
【成績評価の方法・基準】絵本研究の発表 40% ブックトークの発表とシナリオ 20% ビブリオバトルの発表と大会への取り組み 20% 読み聞かせ実習 20% 知識・理解—絵本（児童文学）研究のテーマについて、様々な資料を読みこなし、本質や価値についての確に発表できているかを研究発表から評価する。 思考・判断—研究対象を分析し、特徴や価値、歴史的位置づけなどを論理的に示すことができているかを評価する。 関心・意欲・態度—読み聞かせ会などの実習において、協力して企画し、聞き手に配慮して適切なプレゼンができているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金） 後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】授業中に適宜資料を配布する					
【参考書等】『ひと目でわかるブックトーク』（NPO 読書サポート）『ビブリオバトル』（文春新書） サイト：絵本ナビ・ミーテ（作家のインタビュー等あり） 各作家のブログ等も参照					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 共同で行うことが多いので、しっかり協力しあい、良い発表ができるよう取り組んでください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	青山 千枝子
【キーワード】アメリカ文化、口語表現、リスニング、英文読解、口頭発表、ゼミ論文					
【授業内容・授業の目的】前期は主に映画化されたアメリカの戯曲「Steel Magnolias」を取り上げ、主にプリント教材を使用しながら、英語のセリフなどを通して身近な英語表現を身につけていく。授業では映画の場面を鑑賞しながら、ペアワークなどにより台詞の練習も行う。また、関連した言語的特徴（アメリカ英語の南部方言など）や文化的特徴（年中行事の過ごし方など）について、日本と比較しながら学んでいく。取り上げた内容についてはディスカッションやグループワークも行っていく。後期は主に各自が興味をもった英語や英語圏の文化についてテーマを1つ選択し、個別にアドバイスを受けながら授業を進め、その研究成果をゼミ論文の形で提出する。					
【授業の到達目標（学習成果）】この授業を通して、総合的な英語力をしっかりと伸ばしながら、英語圏の文化について理解を深めながら、以下の学習成果を獲得することを目標とする。 知識・理解…英文を理解するために必要な語彙・文法の知識を身につけ、英語圏の文化に関連する用語の意味や概念を正しく理解することができる。 思考・判断…英語や英語圏の文化に関する諸問題について、必要な情報を収集・選択して、自分の視点で調査・考究し、論理的にゼミ論文の形にまとめることができる。 関心・意欲・態度…自分が興味ある事柄から1つ1つのテーマを取り上げて、主体的に調査を行い、発表することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 授業概要の説明		Robert Harling と Steel Magnolias についてネット上で情報を検索して調べておく。(30分)		
2週	プリント演習 及び 解説(1) 戯曲の読み方		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
3週	プリント演習 及び 解説(2) Easter について		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
4週	プリント演習 及び 解説(3) アメリカの結婚式について		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
5週	プリント演習 及び 解説(4) アメリカ英語の地域方言について		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
6週	プリント演習 及び 解説(5) アメリカのクリスマスについて		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
7週	プリント演習 及び 解説(6) 感情を表す英語表現について		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
8週	プリント演習 及び 解説(7) アメリカの年中行事について まとめ		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
9週	プリント演習 及び 解説(8) アメリカの葬儀について		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
10週	プリント演習 及び 解説(9) アメリカの口語表現について		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
11週	プリント演習 及び 解説(10) アメリカの美容院について		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
12週	プリント演習 及び 解説(11) 1980年代のアメリカについて		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
13週	プリント演習 及び 解説(12) 映画と原作の違いについて		プリント教材を読み、英語表現のわからない部分について調べておく。(60分)		
14週	Steel Magnolias まとめ		作品の中で印象に残った場面やキャラクターについてまとめる。(90分)		
15週	前期のまとめ ゼミ論文作成に向けて		ゼミ論文作成に向けて、自分の興味あるテーマについて考えてくる。(90分)		
16週	ゼミ論文研究テーマの選定		ゼミ論文作成に向けて、自分の興味あるテーマを選び、情報を収集してくる。(90分)		
17週	ゼミ論文作成演習(1) プレインストーミング		自分の選択したテーマに基づき、必要な情報をまとめる。(60分)		
18週	ゼミ論文作成演習(2) 構成について		自分の収集した情報を関連する項目ごとに整理してくる。(60分)		
19週	ゼミ論文作成演習(3) アウトライン作成		ゼミ論文のアウトライン原稿案を作成してくる。(60分)		
20週	ゼミ論文調査報告		ゼミ論文の進行状況を報告できるようにまとめる。(30分)		
21週	口頭発表に向けて(1) 発表の組み立て		ゼミ論文の要旨について自分なりにまとめる。(60分)		
22週	口頭発表に向けて(2) 資料の活用		発表で使用する予定の資料についてまとめる。(60分)		
23週	口頭発表に向けて(3) ハンドアウト作成		発表で配布するハンドアウト原案について考えてくる。(60分)		
24週	口頭発表(1) ゼミ論文中間報告 概要		口頭発表の準備(リハーサル)をしておく。(60分)		
25週	口頭発表(2) ゼミ論文中間報告 まとめ		口頭発表の準備(リハーサル)をしておく。(60分)		
26週	口頭発表での課題まとめ		口頭発表で指摘されたポイントについて改善点などを考えておく。(60分)		
27週	ゼミ論文個別指導(1) 文章の書き方		ゼミ論文を作成するうえでの質問や相談事項を準備しておく。(60分)		
28週	ゼミ論文個別指導(2) 例示の仕方		ゼミ論文を作成するうえでの質問や相談事項を準備しておく。(60分)		
29週	ゼミ論文個別指導(3) 参考文献の書き方		ゼミ論文を作成するうえでの質問や相談事項を準備しておく。(60分)		
30週	ゼミ論文最終発表		ゼミ論文を作成するうえでの質問や相談事項を準備しておく。(60分)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(ゼミ論文)40%、定期試験(口頭発表)30%、提出物(演習課題や発表のまとめ)30%で評価する。 知識・理解…提出物(演習課題や発表のまとめ)により、必要な英語の語彙・文法の知識がきちんと修得できているかを評価する。 思考・判断…定期試験(ゼミ論文)により、英語や英語圏の文化に関する諸問題について、必要な情報を収集・選択して、自分の視点で調査・考究し、論理的にゼミ論文の形にまとめることができるかを評価する。 関心・意欲・態度…定期試験(口頭発表)により、自分が興味あるテーマについて、主体的に調査を行い、発表することができるかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日(金) 後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】授業時にプリント教材を配布する。					
【参考書等】戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK ブックス) 亀井俊介(編)『アメリカ文化事典』(研究社出版) Robert Harling "Steel Magnolias" (Dramatists Play Service)1988. ISBN 978-0-8222-1078-9					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】毎回の授業ではテキストの内容についてのディスカッション、先行研究分析や各自の研究の中間発表、それに基づきお互いの意見交換を行うので、自分から進んで発言するなど積極的な参加が望まれる。ゼミ論文は単なる調査に終わらず調査結果から自分なりの結論を導き出せるようにしつくりと考察をしてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	鈴木 泉子
【キーワード】英文法、英文の情報構造、エッセイライティング、編入対策 (外国語 (英語)、英語学)					
【授業内容・授業の目的】 課題探求ゼミに引き続き、文法の点から英語という言語の構造を理解し、それらの知識を活用し、英語で自分の考えを適切に表現できるようになることを狙いとする。また、必要に応じて日本語と比較することで、日英語の文法上の類似点および相違点を明白にし、日本語母語話者に見られる文法上の誤りの原因についての理解を深める。毎回の授業ではプリントを配布し、問題演習を通じて文法項目を理解し、英語の構造への理解を深める。学期末には、自分の考えを英語で適切に表現できるよう指導し、最終的に英文でエッセイ (小論文) を完成させる。					
【授業の到達目標 (学習成果)】 この授業を通して以下の学習成果を獲得することを目標としている。 (到達目標) 知識・理解…準動詞・関係詞・比較・仮定法を中心とした文法知識を身につけ、英文を適切に解釈することができる。 思考・判断…英語の情報構造を理解し、主張と根拠を英語で適切に展開することができる。 関心・意欲・態度…獲得した知識を定着させるために、自主的に課題を見つけ取り組むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業概要の説明・英語力チェック	事前に英検2級 (2022年度第2回) の(1)～(20)を解いておく (問題は英検HP上からダウンロード可能、入手できない場合は事前に研究室に取りに来ること) (50分)			
2週	文型 (課題探求ゼミの復習)	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
3週	時制 (課題探求ゼミの復習)	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
4週	受動態(1) SVOの受動文	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
5週	受動態(2) SVOO, SVOCの受動文	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
6週	不定詞(1) 名詞的用法	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
7週	不定詞(2) 形容詞的用法・副詞的用法	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
8週	動名詞	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
9週	分詞 (形容詞的用法)	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
10週	分詞構文(1) 分詞構文の基本	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
11週	分詞構文(2) 独立分詞構文	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
12週	2～1 1週のみまとめ	これまでに間違えたところを見直しておく (50分)			
13週	パラグラフの構造	与えられた課題に取り組む (50分)			
14週	パラグラフのためのアウトライン作成	与えられた課題に取り組む (60分)			
15週	パラグラフ作成	与えられた課題に取り組む (60分)			
16週	ゼミ発表 (日英語に関する文法比較について)	日英語の文法事項を1つ取り上げ、類似点及び相違点についてまとめる (夏休みの課題として) (240分)、与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
17週	関係詞(1) 関係代名詞	日英語の文法事項を1つ取り上げ、類似点及び相違点についてまとめる (夏休みの課題として) (240分)、与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
18週	関係詞(2) 関係副詞と関係代名詞の違い	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
19週	関係詞(3) 関係代名詞 what	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
20週	関係詞(4) 複合関係詞	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
21週	比較(1) 原級・比較級・最上級	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
22週	比較(2) 比較に関する重要構文・慣用表現	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
23週	仮定法(1) 仮定法過去・仮定法過去完了	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
24週	仮定法(2) 仮定法未来・仮定法現在	与えられた課題を解き、知らない語句の意味・用法を調べておく (50分)			
25週	16～24週のみまとめ	これまでに間違えたところを見直しておく (50分)			
26週	エッセイの構造	与えられた課題に取り組む (50分)			
27週	エッセイのためのアウトライン作成	与えられた課題に取り組む (60分)			
28週	エッセイのためのアウトライン修正	与えられた課題に取り組む (60分)			
29週	エッセイの作成・校正	与えられた課題に取り組む (60分)			
30週	エッセイの仕上げ	与えられた課題に取り組む (60分)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験 (エッセイライティング) 60%、提出物 (予習課題・授業内課題) 30%、受講態度 10% 知識・理解…エッセイライティング及び授業内課題により、学習した文法事項が身についているかを評価する。 思考・判断…エッセイライティングにより、適切な方法で主張を展開できているかを評価する。 関心・意欲・態度…予習課題及び受講態度により、積極的に課題に取り組めたかを評価する。					
【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日 8月4日 (金) 後期返還日 2月10日 (土)					
【テキスト】 授業時にプリントを配布する					
【参考書等】 南出康世編集主幹『ジーニアス英和辞典 第5版』大修館書店 (英和辞典) 綿貫陽、マーク・ピーターセン著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社 (文法書)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 英語力の向上を目指す者は二次次からでも積極的に履修してほしい。受講までに英検2級相当以上の英語力 (文法・語彙) を修得しておくのが望ましい。英語学 (統語論) や英語教育の分野に興味がある学生の受講を歓迎する。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	北原 泰邦
【キーワード】文章創作、小説の読み方と書き方、卒業制作、創作集					
【授業内容・授業の目的】 近現代の小説の特徴を広く読むことで、小説表現に必要な要素を理解し、各自の小説の書き方に応用していく。人物造型やストーリー展開などの小説構成の基本から会話・比喩表現・描写の技法を習得した上で、卒業創作小説の作成を最終目標とし、最後にゼミ創作文集を完成させる。					
【授業の到達目標（学習成果）】 小説の基本的な表現技法を身につけて、実践的な小説の書き方を習得する。 知識・理解…近代小説の技法・文体の特徴を学び、実践的創作に活かすことができる。 思考・判断…小説の構想の立て方や構成方法を独自で考えて企画を立てることができる。 関心・意欲・態度…卒業制作・ゼミ創作集の完成に向けて積極的に取り組むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス		参考文献・テキストを確認する(30分)		
2週	近現代小説の文章を学ぶ①		小説の読み方を考える(30分)		
3週	近現代小説の文章を学ぶ②		小説の書き方を考える(30分)		
4週	小説の表現方法を学ぶ①		小説の表現技法を考える(30分)		
5週	小説の表現方法を学ぶ②		小説の構成を考える(30分)		
6週	小説のジャンルを考える		小説のジャンルを調べる(30分)		
7週	ストーリーとプロットの関係を考える		小説の企画書を考える①(60分)		
8週	小説のプロットを考える		小説の企画書を考える②(60分)		
9週	小説のテーマを考える		小説の企画書を考える③(60分)		
10週	小説の舞台設定を考える		テーマ小説の企画書を作る①(60分)		
11週	テーマ小説の方法		テーマ小説の企画書を作る②(60分)		
12週	テーマ小説の企画書を作る		テーマ小説の企画書を作る③(60分)		
13週	テーマ小説の企画書を検討する		テーマ小説の作成①(60分)		
14週	テーマ小説を書く		テーマ小説の作成②(60分)		
15週	テーマ小説の完成		テーマ小説の作成③(60分)		
16週	後期授業ガイダンス		前期授業を振り返る(60分)		
17週	描写と比喩表現を学ぶ		卒業制作小説の企画①(60分)		
18週	小説の時間と空間を考える		卒業制作小説の企画②(60分)		
19週	対話の技法を学ぶ		卒業制作小説の企画③(60分)		
20週	小説作成の手順を理解する		卒業制作小説の企画④(60分)		
21週	文化祭発表準備①		文化祭発表の準備①(60分)		
22週	文化祭発表準備②		文化祭発表の準備②(60分)		
23週	卒業創作の構想を考える		卒業制作小説の構想を練る(60分)		
24週	卒業創作の企画書を作る①		小説の企画書作成①(60分)		
25週	卒業創作の企画書を作る②		小説の企画書作成②(60分)		
26週	卒業創作作成①		卒業制作の作成①(60分)		
27週	卒業創作作成②		卒業制作の作成②(60分)		
28週	卒業創作作成③		卒業制作の作成③(60分)		
29週	ゼミ発表の準備①		ゼミ創作集の準備①(180分)		
30週	ゼミ発表の準備②		ゼミ創作集の準備②(180分)		
【成績評価の方法・基準】定期試験「レポート-卒業制作小説-」(70%)、受講態度(30%) 知識・理解…課題文において、課題の意図を理解した上で創作文章を作成できたかを評価する。 思考・判断…卒業制作において、小説の企画書の内容をふまえて創作に活かされたかを評価する。 関心・意欲・態度…卒業制作において、創作小説の完成に向けて積極的に取り組めたかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金） 後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】授業時に随時プリント配布する					
【参考書等】『小説作法ABC』（島田雅彦、新潮選書）、『小説作法ハンドブック』（榎本秋著・アスペクト社）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ゼミ活動の締めくくりとして、卒業制作をまとめたゼミ創作文集を作ります。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	齋藤 紀江
【キーワード】情報デザイン、マーケティング、WEB、MOS資格、経理、知的財産、プログラミング、アーカイブ、CG					
【授業内容・授業の目的】情報デザインを体系的に学ぶ。情報媒体や機器を用いて発信方法を習得する。レンタルサーバー設置方法、WEBデザイン応用技術を学ぶ。研究テーマ1ではCG、Word・Excel・PowerPoint、経理、WEBから選択、研究テーマ2は情報支援、WEB制作、CG、プログラミングから選択し、社会に役立つための情報物を完成させる。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解…専門情報知識と技能を習得。社会で使われている情報技術や用語を理解できる。 思考・判断…TPOに沿ったツールを選択操作し、IOT機器およびソフトを活用して情報を表現できる。 関心・意欲・態度…情報技術を何に使えるか関心を持ち、習得した知識や技術で情報弱者を助ける事ができる意欲を持つ。					
授業計画		準備学習等		授業計画	
1週	Google、SNS、サーバ	過去ゼミ資料理解 (0.5時間)	16週	研究1発表(1)	前期復習(2時間)
2週	SNS連携とGoogle	SNS、理解(1時間)	17週	研究1発表(2)	16週復習(1時間)
3週	デザイン基礎理論	ロリポップ閲覧確認 (0.5時間)	18週	情報共有支援(1)	8～11週復習(1時間)
4週	デザイン思考(1)	参考書理解(1時間)	19週	情報共有支援(2)	Powerpointまとめ (1時間)
5週	デザイン思考(2)	3-4復習(1時間)	20週	企画リサーチ論	ITパスポート復習 (0.5時間)
6週	デザイン名刺制作(1)	プリンタ特性復習 (0.5時間)	21週	マーケティング理論	ITパスポート復習 (0.5時間)
7週	デザイン名刺制作(2)	各自名刺完成(0.5時間)	22週	マーケティング戦略	ITパスポート復習 (0.5時間)
8週	情報支援テーマ決定	支援対象を決める (0.5時間)	23週	テーマ2準備コンセプト	22週までを総復習 (1時間)
9週	情報支援ワークフロー	ワークフロー企画 (1.5時間)	24週	テーマ2準備企画	テーマ2リサーチ (0.5時間)
10週	情報支援決定作業	ロジックモデル考案 (2時間)	25週	テーマ2準備デザイン	テーマ可視化(0.5時間)
11週	情報支援企画作成	8～10を復習(2時間)	26週	テーマ2制作準備	資料素材準備(1時間)
12週	前期課題(1)	選択ソフト復習(1時間)	27週	テーマ2プロトタイプデザイン	24-26週をまとめる (1時間)
13週	前期課題(2)	選択ソフト復習 (0.5時間)	28週	テーマ制作開発	研究テーマ2基本完成 (3時間)
14週	前期課題(3)	資料準備(1時間)	29週	テーマ2課題発表2	研究テーマ2仮完成 (2時間)
15週	前期課題(4)	発表資料準備(2時間)	30週	総合課題アップロード	研究テーマ2完成 (1時間)
【成績評価の方法・基準】前期課題30%、後期課題30%、授業態度40% 理解・知識・技術…経済・文化における情報技術活用知識を理解し、社会で必要とされる技能と知識を習得する。 思考・判断…著作権、商標権等の知的財産について遵守。社会で実際に活用できる商品づくり。 関心・意欲…TPOに沿ったツールを選択し専門的知識を情報受信者に合わせわかりやすい表現に置き換え発信する意欲。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】メール返信および授業用WEBサイトに掲載。					
【テキスト】 ・ITパスポート演習、CG、WEBデザインで使用した教科書 ・レンタルサーバー代(12か月6600円) ・必要となるソフトサブスク代(研究テーマ選択により異なる、授業で説明)					
【参考書等】・授業で必要に応じ先生の書籍を貸し出します。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・自分のPCを持っている学生は自分のPCを使用して授業をすすめていただいても構いません。 ・情報系の科目内容はすべて授業で行います。情報系全般科目の復習を必ず行ってください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	泉 石心
【キーワード】表現力、美意識、書体理解、発想力					
【授業内容・授業の目的】自分が制作したい書作分野を選択し、それに関連した研究テーマを掘り下げ、作品を制作する。最終的に半切から全紙までの大きさの作品に仕上げ、制作した作品の中から学外で発表する卒業制作展に出品する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業の目標は、書道芸術・書道文化を理解し、その知識を活用しながら課題を探究する能力を身に付け、書表現をすることである。 知識・理解…文房四宝、各書体の特徴や書体分野を理解することができる。 技術・表現…用具の特性を活かし、自由な発想で表現することができる。 関心・意欲・態度…文房四宝、書道史にも関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 書作分野		文房四宝について調べておく。(1時間)		
2週	日本書道史 仮名の成立		仮名の成立について調べておく。(1時間)		
3週	三色紙の研究		三筆と三跡について調べておく。(1時間)		
4週	寸松庵色紙 ちらし書き		寸松庵色紙ペン書き練習(1時間)		
5週	寸松庵色紙 まとめ		寸松庵色紙細筆練習(1.5時間)		
6週	墨の研究 濃墨と淡墨		墨づくりについて調べておく。(1時間)		
7週	一字書作品の研究 草稿づくり		配布する資料を見て感想をまとめておく。(1時間)		
8週	一字書作品制作 墨色とかすれ		一字書作品草稿づくり(0.5時間)		
9週	一字書作品制作 まとめ		一字書作品半紙練習(1時間)		
10週	篆書の研究 甲骨文・金文 草稿づくり		甲骨文・金文について調べておく。(1時間)		
11週	篆書作品制作		篆書作品半紙練習(1時間)		
12週	篆書作品制作 まとめ		篆書作品半紙練習(1時間)		
13週	イメージによる書 イメージづくり		看板やチラシの筆字を調べる。(1時間)		
14週	イメージによる書作品制作 まとめ		イメージによる書半紙練習(1時間)		
15週	篆刻(白文と朱文) 作品鑑賞		篆刻について調べておく。(1時間)		
16週	篆刻(構成と布字)		配布する資料を見て感想をまとめておく。(1時間)		
17週	篆刻 作品制作 刻		作品制作(1時間)		
18週	篆刻 作品制作 刻		作品制作(1時間)		
19週	篆刻 補刀 まとめ		作品制作(1時間)		
20週	刻字 陽刻と陰刻 作品鑑賞		刻字について調べておく。(1時間)		
21週	刻字 構成 草稿づくり		自分が彫る短文を調べておく。(1時間)		
22週	刻字 作品制作		刻字作品制作(1時間)		
23週	刻字 彩色 まとめ		刻字作品制作(1時間)		
24週	半切作品制作 作品鑑賞 草稿づくり		配布する資料を見て感想をまとめておく。(1時間)		
25週	半切作品制作 章法		半紙練習(1時間)		
26週	半切作品制作 まとめ		半紙練習(1時間)		
27週	全紙作品制作 作品鑑賞 草稿づくり		配布する資料を見て感想をまとめておく。(1時間)		
28週	全紙作品制作 章法		半紙練習(1時間)		
29週	全紙作品制作 まとめ		半紙練習(1時間)		
30週	まとめ 作品鑑賞 卒業制作展準備		一年間の授業の感想をまとめる。(1時間)		
【成績評価の方法・基準】受講態度(50%)、提出物【作品、コメントカード等】により評価する。 知識・理解…古典の特徴や文房四宝の特性を十分理解できているかを評価する。 技能・表現…豊かな発想で自分なりの書表現ができているかを評価する。 関心・意欲・態度…幅広い書作分野に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日(金) 後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】書道雑誌『墨』芸術新聞社					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 図書館に幅広い書作分野の作品が掲載されている本が多くあるので参考にしてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
専門ゼミ (S323)	2	必修	2年 通年	演習	三輪 雅子(※)
【キーワード】 ピアヘルパー 箱庭療法 現代の心理社会的課題 研究レポート 口頭発表					
【授業内容・授業の目的】 ピアヘルパーの教科書講読、ワークを通して基礎知識を身につける。箱庭療法体験により自分自身の心理的特性を分析する。身近な心理社会的課題について文献調査を行い研究発表とレポートにまとめる。					
【授業の到達目標（学習成果）】 ピアヘルパー試験合格、箱庭療法体験、現代の心理社会的課題の理解、これらを生かした課題解決の能力を身につけることを目指している。 知識・理解：ピアヘルパー・箱庭療法・身近な心理社会的課題について正しく述べるができる。 技術・表現：ピアヘルパー・箱庭療法・心理社会的課題に関する考えを自らの理由をあげて主張できる。 思考・判断：獲得した知識等を身近な課題に適用できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	箱庭療法体験と解説①箱庭療法とは	箱庭療法について調べる。(1時間)			
2週	箱庭療法体験と解説②箱庭療法体験	箱庭療法を実施しておく。(1時間)			
3週	箱庭療法体験レポート発表	箱庭療法体験のレポートをまとめる。(1時間)			
4週	教科書講読①グループエンカウンター	教科書 P10～P15 を読んでおく。(1時間)			
5週	教科書講読②カウンセリングの定義	教科書 P16～P21 を読んでおく。(1時間)			
6週	教科書講読③カウンセリングの種類	教科書 P22～P26 を読んでおく。(1時間)			
7週	教科書講読④カウンセリングの関係領域	教科書 P27～P32 を読んでおく。(1時間)			
8週	教科書講読⑤ピアヘルピングのプロセス	教科書 P33～P39 を読んでおく。(1時間)			
9週	教科書講読⑥パーソナリティ	教科書 P40～P45 を読んでおく。(1時間)			
10週	教科書講読⑦カウンセリング	教科書 P46～P50 を読んでおく。(1時間)			
11週	教科書講読⑧言語的技法・非言語的技法	教科書 P52～P70 を読んでおく。(1時間)			
12週	教科書講読⑨問題への対処法・心構え	教科書 P71～P95 を読んでおく。(1時間)			
13週	教科書講読⑩活動許容範囲と留意点	教科書 P98～P103 を読んでおく。(1時間)			
14週	教科書講読⑪学業領域・進路領域	教科書 P104～P116 を読んでおく。(1時間)			
15週	教科書講読⑫友人領域・グループ領域	教科書 P117～P128 を読んでおく。(1時間)			
16週	教科書講読⑬関係修復領域・心理領域	教科書 P129～P140 を読んでおく。(1時間)			
17週	ピアヘルパー認定試験対策 教科書まとめ	教科書の重点項目を読んでおく。(1時間)			
18週	ピアヘルパー認定試験対策 用語集作成	教科書の重点項目をまとめておく。(1時間)			
19週	ピアヘルパー認定試験対策 模擬問題	教科書の模擬問題をやっておく。(1時間)			
20週	研究レポート作成 テーマを決める	研究テーマを考えておく。(1時間)			
21週	研究レポート作成 資料を収集する	文献を収集しておく。(1時間)			
22週	研究レポート作成 収集した資料の整理	文献を整理しておく。(1時間)			
23週	研究レポート作成 レポートの構成について	レポートの構成を考えておく。(1時間)			
24週	研究レポート中間報告 テーマについて	研究テーマ報告の準備をする。(1時間)			
25週	研究レポート中間報告 レポート構成	構成報告の準備をする。(1時間)			
26週	研究レポート作成 概要をまとめる	レポート概要をまとめておく。(1時間)			
27週	研究レポート作成 発表リハーサル	リハーサルの準備をする。(1時間)			
28週	研究レポート発表 口頭発表	口頭発表の準備をする。(1時間)			
29週	研究レポート発表 質疑応答	質疑応答の準備をする。(1時間)			
30週	研究レポート最終報告と提出	研究レポート提出の準備をする。(1時間)			
【成績評価の方法・基準】 提出物 40%、定期試験（レポート）40%、受講態度 20% 知識・理解：提出物と定期試験（レポート）によって主要キーワードが正確に説明できているかを評価する。 思考・判断：提出物と定期試験（レポート）によってテーマを論理的に展開できているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日 8月4日（金） 後期返還日 2月10日（土）					
【テキスト】 日本教育カウンセラー協会 編 『ピアヘルパーハンドブック』 図書文化社 ISBN 978-4810013436					
【参考書等】 日本教育カウンセラー協会 編 『ピアヘルパーハンドブック』 図書文化社 ISBN 978-4810023862					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 各自の関心に沿った研究テーマを決めて文献調査等を行い、その成果を発表し、研究レポートにまとめ提出します。 研究発表と研究レポートの作成には自主的かつ積極的に取り組む必要があります。					